富士山と信仰

日本一高くそびえる富士山は日本人にとって神聖な存在です。古くから『信仰の対象』として、日本人の自然観に大きな影響を与えてきました。

古来、火山活動を繰り返す富士山は、山麓から山頂を仰ぎ見て崇拝する「遥拝」の対象となってきました。やがて噴火が鎮まると、日本古来の山岳信仰と外来の仏教が習合した「修験道」の道場として、多くの修行者（修験者）が山頂への「登拝」を行う場所となります。さらに時代が進むと、道者と呼ばれる一般の人々が、修験者に導かれて山頂を目指すようになりました。そして、17世紀以降は「富士講」と呼ばれる富士山信仰が隆盛します。数多くの富士講信者が登拝するとともに、山麓の霊地を巡る「巡拝」を行うようになり、登山者を支援する御師住宅など施設の**整備も進み**ました。

現在も**夏の登山時期**になると、御来光を拝んだり、噴火口周囲を一周するお鉢巡りなどをしたりするために、山頂を目指す人々で賑わっています。



富士山本宮浅間大社蔵

絹本著色富士曼荼羅図

室町時代に描かれた絵画。浅間大社や、道者が湧水で身を清め登拝する様子が1枚の曼荼羅図としてまとめられています。

富士山と芸術

雄大さと美しさを兼ね備える富士山は、「芸術の源泉」として、日本人のみならず海外の芸術家にもインスピレーションを与えてきました。絵画、文学、詩歌、演劇の題材となり、数多くの芸術作品を生み出しました。

古くは8世紀に編まれた日本最古の和歌集「万葉集」にも富士山を詠んだ和歌が見られ、「竹取物語」「伊勢物語」などの古典作品、俳句や漢詩にも題材として取り上げられてきました。平安時代以降は絵画の世界にも登場しはじめ、江戸時代には葛飾北斎の「冨嶽三十六景」や歌川広重の「東海道五拾三次」などの富士山を描いた浮世絵が人気になります。それらは海外にも輸出され、ゴッホやモネなどの西洋芸術家に**衝撃**を与えました。

近代では、横山大観の「群青富士」で屏風絵として描かれたり、夏目漱石や太宰治の文学作品の題材となるなど、富士山の「芸術の源泉」としての価値は今もなお薄れることはありません。



山梨県立博物館蔵

冨嶽三十六景 凱風快晴（葛飾北斎）

各地から望む富士山の形姿を描いた浮世絵作品で、海外の芸術家にも影響を与えました。「冨嶽」とは富士山のことを指します。

富士山を未来に引き継ぐための取組

富士山憲章

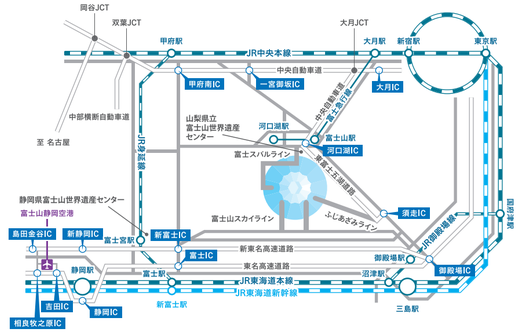
山梨県と静岡県は、富士山を守り、育み、その恵みを未来へと引き継ぐため、「富士山憲章」を定めました。両県は、関係市町村、関係団体と協力し、富士山を守る気持ちを育む活動を進めています。

1 富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
1 富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
1 富士山の自然環境への負荷を減らし、人との共生を図ろう。
1 富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
1 富士山の自然、景観、歴史・文化を後世に末長く継承しよう。

富士山の日

山梨県と静岡県は、毎年2月23日を「富士山の日」と定めました。富士山への理解と関心を深める日として、さまざまな情報の発信やイベント活動などを行っています。

アクセスマップ



高速道路

東京 約1時間 御殿場 約10分 裾野 約20分 富士
東京 約1時間 新東名 約30分 新富士
名古屋 約2時間40分 裾野 約10分 御殿場
名古屋 約2時間30分 新東名 約30分 新富士

JR東海道新幹線

東京駅 約1時間 三島駅 約10分 新富士駅
名古屋駅 約1時間40分 新富士駅 約10分 三島駅

JR中央本線

新宿駅 約1時間 大月駅 約45分 河口湖駅
富士急行

中央自動車道

東京 約1時間30分 河口湖
名古屋 約3時間 河口湖

高速バス

新宿駅 約1時間50分 河口湖 約30分 山中湖

世界遺産

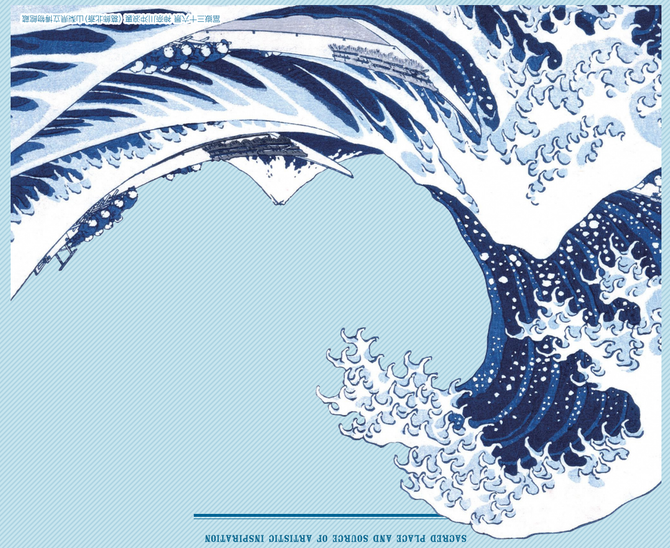
WORLD HERITAGE

富士山

FUJISAN

信仰の対象と芸術の源泉

SACRED PLACE AND SOURCE OF ARTISTIC INSPIRATION



冨嶽三十六景 神奈川沖浪裏（葛飾北斎）山梨県立博物館蔵



世界遺産となった富士山

日本一の高さ（標高3,776メートル）を持つ活火山、富士山。

2013年6月、第37回世界遺産委員会において、「富士山 ―信仰の対象と芸術の源泉」の名称のもと世界文化遺産に登録されました。その背景には、富士山が「信仰の対象」であるとともに、「芸術の源泉」として、日本人の自然観や日本文化に大きな影響を与えてきた歴史があります。

かつては噴火を繰り返す山として畏れられていた富士山は、富士講と呼ばれる信仰集団や浮世絵の登場などにより、日本人にとって身近な存在となりました。人と自然が信仰と芸術を通して共生する姿は、富士山が持つ大きな特徴と言えるでしょう。そうした歴史・文化にゆかりのある25カ所から成る富士山を、ユネスコ世界遺産委員会は本来に受け継ぐべき世界の宝として認めたのです。

世界遺産とは

1972年のユネスコ総会で「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」が採択されました。この条約に基づき、後世に引き継いでいくべきものとして世界遺産委員会によって選ばれた文化と自然の遺産のことです。世界遺産として登録されるには、資産が顕著な普遍的価値（国境や時代を超え、人類にとってかけがえのない価値）があることと、末永く引き継ぐための保存管理の仕組みが整っていることが必要です。

世界遺産の種類

文化遺産
顕著な普遍的価値を有する記念物、建造物群、遺跡、景観

自然遺産
顕著な普遍的価値を有する地形や地質、生態系、絶滅のおそれのある動植物の生息・生育地など

複合遺産
文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備えているもの

発行
富士山世界文化遺産協議会
山梨県　富士吉田市　身延町　西桂町　忍野村　山中湖村　鳴沢村　富士河口湖町
富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合　鳴沢・富士河口湖恩賜県有財産保護組合
静岡県　静岡市　沼津市　三島市　富士宮市　富士市　御殿場市　裾野市　清水町　長泉町　小山町

山梨県事務局
山梨県観光文化・スポーツ部富士山観光振興グループ　〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1-6-1
Tel. 055-223-1316　Fax. 055-223-1438　E-mail. fujisan-hz@pref.yamanashi.lg.jp

静岡県事務局
静岡県スポーツ・文化観光部富士山世界遺産課　〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9-6
Tel. 054-221-3746　Fax. 054-221-3757　E-mail. sekai@pref.shizuoka.lg.jp

編集協力： 認定NPO法人 富士山世界遺産国民会議

令和8年7月

いつまでも
富士山を
世界遺産に

~11TH CENTURY

噴火と遥拝
～富士山信仰のめばえ～

富士山の噴火

古来、富士山麓では、富士山に対する展望を意識して集落や祭祀の場が形成されていました。8世紀から9世紀頃、人々は度重なる噴火を、火の神「浅間大神」の怒りと考えました。それを鎮めるために山麓から山頂を仰ぎ見て崇拝する「遥拝」の習慣が生まれ、各地に遥拝所（1-6 北口本宮冨士浅間神社、3 山宮浅間神社）が設けられました。

浅間神社の建立

800年から802年に起こった延暦噴火、864年の貞観噴火など、富士山は大規模噴火を繰り返しました。それを鎮めるため、浅間大神を祀った 2 富士山本宮浅間大社や 7 河口浅間神社、8 富士御室浅間神社などが建立されたと考えられています。



万葉集
日本最古の和歌集。歌人・山部赤人が「田子の浦ゆうち出でてみれば真白にそ富士の高嶺に雪は降りける」と、富士山の美しさを詠んでいます。

竹取物語
日本最古の物語作品。帝はかぐや姫から受け取った不老不死の薬を日本一高い山で焼き、その山は「不死（＝富士）」の山になったと書かれています。



聖徳太子絵伝
聖徳太子の生涯と功績をまとめた絵画。太子が愛馬に乗って富士山を駆けた様子が描かれています。

奉敬画／聖徳太子絵伝_3面（部分）
東京国立博物館蔵
Image: TNM Image Archives

~12TH CENTURY

修験者と登拝
～富士山信仰の大衆化～

修行の場としての富士山

12世紀頃になると富士山の噴火活動が鎮まったことから、修験者と呼ばれる宗教者たちは、富士山を山岳修行の地として、富士山の神仏から霊力を得るために山頂を目指す「登拝」を志すようになっていきます。
1-1 山頂の信仰遺跡群

修験者《末代上人》

富士山に数多く登拝したと伝えられる修験者の末代上人は、山頂に大日寺を建立し、南麓の村山に富士山興法寺（現在の 4 村山浅間神社）を構えたとされています。多くの宗教者たちが、厳しい修行によって霊力を得るために、村山に集いました。

登拝の広がり

14世紀以降になると登拝の文化が広がり、道者と呼ばれた庶民の信者も、修験者に導かれて登拝を果たすようになります。5 須山浅間神社、9 富士浅間神社など登山口の浅間神社を拠点とする各登山道（1-2 大宮・村山口登山道、1-3 須山口登山道、1-4 須走口登山道、1-5 吉田口登山道）の整備が進むとともに、各登山口では道者を迎える集落が形成されました。



清見寺蔵

富士三保清見寺図（伝雪舟筆模写）
富士山と 25 三保松原、清見寺（静岡市清水区）の3カ所を描いた水墨画。頂上を3つの峰に描く「三峰型」の代表作品です。



1-6 北口本宮冨士浅間神社
浅間大神が祀られていた遥拝所を起源として建立されたと伝えられる浅間神社。後に、吉田口登山道の起点として富士講とともに発展した神社です。



2 富士山本宮浅間大社
全国の浅間神社の総本社。噴火を鎮めるために浅間大神を祀ったことを起源とし、806年に現在の地に社殿を移しました。



3 山宮浅間神社
富士山本宮浅間大社の前身で、社殿の代わりに遥拝所が設けられ、富士山に鎮火の祈りを捧げたといわれています。



7 河口浅間神社
9世紀後半の噴火を機に建立されたと伝えられる浅間神社。河口の地は、都と甲府盆地を結ぶ官道（御坂路）の宿駅として栄えました。



8 富士御室浅間神社
富士山中に最も早く祀られたともいわれる浅間神社。吉田口登山道の二合目に修験や富士講の拠点である本宮が、河口湖畔には里宮が置かれています。



1-1 山頂の信仰遺跡群
修験者の登拝が始まると、山頂の火口壁に沿って信仰の拠点が建てられました。火口の周囲にある8つの峰を、極楽浄土を表す八葉蓮華に見立てて巡る「お鉢巡り」も行われました。



4 村山浅間神社
末代上人が修験道の拠点とした浅間神社。富士山本宮浅間大社を起点とし、村山浅間神社を経て山頂に向かう登山道は、多くの修験者に利用されました。



1-2 大宮・村山口登山道（現在の富士宮口登山道）



5 須山浅間神社
須山口登山道の起点とされた浅間神社。この道は宝永大噴火で大きな被害を受けました。



1-3 須山口登山道（現在の御殿場口登山道）



6 富士浅間神社（須走浅間神社）
延暦大噴火を受けて807年に造営されたと伝えられる浅間神社。須走口登山道は富士講信者の巡拝に利用されました。



1-4 須走口登山道



1-5 吉田口登山道
北口本宮富士浅間神社を起点とし、現在でも山麓から山頂まで徒歩で登ることができる唯一の登山道です。



25 三保松原
この地から望む美しい富士山の姿は、多くの芸術家に影響を与えてきました。「万葉集」以降の多くの和歌集に登場し、謡曲「羽衣」の舞台や浮世絵の題材としても取り上げられています。



9,10 御師住宅（旧外川家住宅・小佐野家住宅）
道者や富士講信者が登拝する際、寝食の提供を行った施設。
＊10小佐野家住宅は非公開



13~20 忍野八海
富士山の湧水からなる8つの池（出口池、お釜池、底抜池、銚子池、湧池、濁池、鏡池、菖蒲池）の総称。「富士山根元八湖」と呼ばれる古くからの霊地でした。



21 船津胎内樹型
溶岩流が樹木を巻き込んでできた溶岩樹型のうち、内部が人間の胎内に似たものを胎内樹型と呼びます。富士講信者が「胎内巡り」という信仰活動を行いました。
＊22吉田胎内樹型の内部は一般公開されていません



22 吉田胎内樹型



23 人穴富士講遺跡
富士山の神の御在所として伝えられる溶岩洞穴。長谷川角行が修行の拠点としたことから、富士講の聖地となりました。



24 白糸ノ滝
富士山の火山層からの湧き水が流れ出る名瀑。長谷川角行が人穴に入る前に身を清めた地とされ、富士講信者の巡礼の場ともなりました。



1-7 西湖



1-8 精進湖



1-9 本栖湖



11 山中湖



12 河口湖

富士五湖は、西湖、精進湖、本栖湖、山中湖、河口湖の総称。富士講では富士五湖を含む富士山の周囲の8つの湖沼を巡礼し水行をする「内八海巡り」を行いました。

構成資産	顕著な普遍的価値を有する区域
構成要素	構成要素は富士山域に含まれる登山道や湖などの文化財
緩衝地帯	構成資産の効果的な保全を目的として、資産の周辺に設定した区域
保全管理区域	構成資産と緩衝地帯の外側に設定した、自主的な管理に努める区域

1 富士山域
1-1 山頂の信仰遺跡群
1-2 大宮・村山口登山道（現在の富士宮口登山道）
1-3 須山口登山道（現在の御殿場口登山道）
1-4 須走口登山道
1-5 吉田口登山道
1-6 北口本宮富士浅間神社
1-7 西湖
1-8 精進湖
1-9 本栖湖
2 富士山本宮浅間大社
3 山宮浅間神社
4 村山浅間神社
5 須山浅間神社
6 富士浅間神社（須走浅間神社）
7 河口浅間神社
8 富士御室浅間神社
9 御師住宅（旧外川家住宅）
10 御師住宅（小佐野家住宅）
11 山中湖
12 河口湖
13 忍野八海（出口池）
14 忍野八海（お釜池）
15 忍野八海（底抜池）
16 忍野八海（銚子池）
17 忍野八海（湧池）
18 忍野八海（濁池）
19 忍野八海（鏡池）
20 忍野八海（菖蒲池）
21 船津胎内樹型
22 吉田胎内樹型
23 人穴富士講遺跡
24 白糸ノ滝
25 三保松原

構成資産に関する詳細情報はこちら

17~19TH CENTURY

富士講と巡拝
～富士山信仰の隆盛～

長谷川角行と聖地巡礼

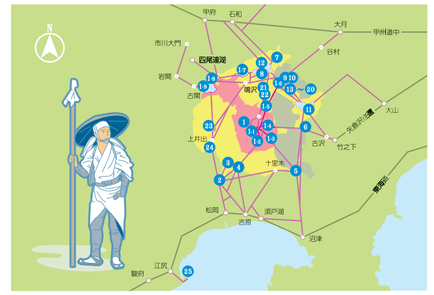
17世紀になると、富士山で修行した長谷川角行を祖とする富士山信仰「富士講」が誕生します。角行が修行したとされる 23 人穴富士講遺跡や 24 白糸ノ滝、内八海（1-7 西湖、1-8 精進湖、1-9 本栖湖、11 山中湖、12 河口湖など）、外八海をはじめ、元八海（13～20 忍野八海）、21 船津胎内樹型、22 吉田胎内樹型などを聖地として巡礼しながら富士山を崇拝する「巡拝」の信仰形式ができあがります。

富士講の流行と巡礼路

18世紀、長谷川角行ゆかりの地を巡拝する富士講が、庶民に人気を博します。それぞれの聖地を巡る巡礼路は、富士山の構成資産となった山麓の浅間神社や名所・旧跡をつなぐ道として多くの道者が行き交いました。また、登山口では道者の案内や世話を務めた御師の居住する 9 10 御師住宅が発達しました。

富士山への巡礼路図 19世紀中頃の様子

富士山の巡礼路は順番にたどる一本の道ではなく、目的に応じて様々なルートが利用されていました。この図は、富士講の隆盛に伴い、多くの巡礼路が整備された19世紀中頃（江戸時代末）の巡礼路を示したものです。





東海道五拾三次　原 朝之富士（歌川広重）
東海道の53の宿場町を描いた浮世絵の連作。川崎、箱根、吉原、由比などを描いた作品に富士山が登場します。

静岡市東海道広重美術館蔵

19TH~ CENTURY

富士登山の多様化

近代化と富士山信仰



©株式会社ブレック研究所

近代化によって、富士山周辺地域では鉄道網や自動車道が整備され、五合目から登山する方法が進んだことで、観光など富士登山に対する動機が多様化しました。しかし、現在も多くの登山者が山頂などで「御来光」を拝み、「お鉢巡り」を行うなど、富士山への信仰心は今に受け継がれています。

山頂から望む御来光



静岡県立美術館蔵

群青富士（横山大観）
群青色の山肌と残雪の対比が鮮やかな屏風絵。琳派の研究を基礎に描かれました。